

令和元年度 特別推進研究 審査結果の所見

<p>研究課題名</p>	<p>地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成</p>
<p>研究代表者</p>	<p>奥村 弘（神戸大学・人文学研究科・教授）</p>
<p>研究期間</p>	<p>令和元年度～令和5年度</p>
<p>科学研究費委員会 審査・評価第一部会 における所見</p>	<p>本研究は、応募者がこれまで実践してきた、大規模自然災害の中での記憶継承のための学としての地域歴史資料学を踏まえ、1) 「地域住民による歴史資料と歴史文化の継承方法の開発」、2) 「地域歴史文化創成に資するデータの国際標準構築と全国的なデータインフラストラクチャーの構築」、3) 「地域社会形成史の通史的提示」を三本柱としている。本研究では、これら1)～3)によって人口減少や大規模災害などにより危機に瀕している地域が存続するための基盤となる、新たな地域歴史文化の創成を目指している。</p> <p>記憶継承のための歴史資料学を一步進め、地域の記憶を歴史として引き継ぐ課題を明確化した「地域歴史文化の創成」という本研究の目的が具現化されれば、過疎化や大規模災害などの地域社会の危機にとって、大きな意義を見出せる新たな学問分野の創出につながるものと期待できる。また、本研究への地域住民の実質的な参加と、資料を残し共有するためのデジタルヒューマニティーズの活用も魅力的である。</p> <p>本研究により地域史料ネットワークと史料の公共的プラットフォームが構築されることで、地域社会保持に寄与する多くの歴史研究モデルの創成と、失われつつある地域社会復興への寄与が期待される。</p>